

図書館における新入生歓迎イベント 「Library Week」

近年、図書館は大学の教育研究に必要な学術情報を提供する場としてだけでなく、学習支援の場として活用されるようになってきました。新入生にとって、図書館に触れることは、主体的な学びを期待される大学生活の第一歩を踏み出す際に重要なことと言えます。早稲田大学図書館では、例年よりも多彩な新入生向けの歓迎イベントを開催しました。このイベントを企画・主催された早稲田大学図書館の利用者支援課様にご寄稿戴きました。

図書館における新入生歓迎イベント「Library Week」

早稲田大学図書館 利用者支援課

◆イベント開催に至るまで

最近、本学図書館では授業支援や図書館ツアーを実施することで初年次教育に貢献してきた。しかし、支援数の増加に伴い、人員の不足やツアー時の騒音、館内の混雑が課題として浮かんできた。一方、まだ多くの学生が図書館を活用しきれていないのではという思いが常に残っていた。

そこで、2013年度は「授業の支援」だけではなく「広く新入生を歓迎する」という発想のもと、新入生に図書館の魅力を知ってもらえるようなイベントを大々的に開催し、学生の主体的な来館を促す機会を創出した。

以下に4月13日（土）から19日（金）の1週間に開催した「Library Week」（以下、LW）の各イベントを紹介する。



＜イベントのポスター 表・裏＞



＜イベント一覧＞ *この他、戸山図書館（文系キャンパス）では、セルフツアー、資料展示等を実施

1	図書館セルフツアー	6	姜尚中氏講演会
2	知的書評合戦「ビブリオバトル@早稲田」	7	情報検索講習会
3	館内でのコンサート	8	映像資料上映会
4	図書館学生ボランティアによる学生読書室ツアー	9	書評展示
5	学生ボランティアによる学習相談会	10	ライブラリークイズ

1. 「図書館セルフツアー」

これまでの図書館職員による引率型ツアーを、スタンブラリー形式のセルフツアーに変えて実施した。形式の目新しさや、ツアー達成者がもらえる図書館オリジナルのクリアファイル（4種類）が興味を引いたのか、LW 期間中で 1,000 名近くの参加があった。この中には授業の一環として参加した学生の他、自主的な参加者も 200 名近くにのぼった。なお、このセルフツアーは LW 期間後も継続して実施している。



＜スタンプ台と説明パネル＞

2. 知的書評合戦「ビブリオバトル@早稲田」



＜会場の様子＞

近年、人気の兆しを見せている「ビブリオバトル」を実施した。開催実績のある紀伊國屋書店様のご協力を得て、大学側からも総長賞や図書館長賞を設け、予選 4 回（4 月）、準決勝 2 回（5 月）、決勝 1 回（6 月）という大規模なイベントになった。発表者（バトルー）は総勢 20 名が集まり、各々の推薦本について熱く語ってもらった。まさに「本と人」とが一体となった図書館にふさわしいイベントであり大きな手ごたえを感じた。6 月 24 日の決勝では会場が満席となる盛況ぶりだった。

3. 館内でのコンサート「ライブラリーコンサート」

平日昼の時間帯に 20 分程のコンサートを 5 日間連続で行った。奏者は学内の学生音楽団体に依頼し、弦楽（2 組）・ギター・マンドリン・声楽の 5 組となった。コンサート会場として、図書館の中央にある大階段の踊り場をステージとし、大階段手前の広間をイス席、吹き抜けになっている 3, 4 階のスペースをバルコニー席（立見）とした。この恵まれた施設環境を「音楽」に使ってみることが、この企画の 1 つのポイントでもあった。

開館時間内に閲覧スペースでコンサートを行うという試みは、これまでの本学図書館のイメージを大きく超えたものであり、利用者の反応が気になった。しかし、事前に丁寧に広報をしたため、観客も各日 100 名程が集まり、アンケートでも好評価を得た。また、twitter 上でも好意的なコメントがほとんどで、館内においてもクレームが寄せられなかったことは、うれしい驚きであった。学生のための発表の場として図書館を提供できたことも意義深いと言える。



＜ステージ及びイス席（建物の 2 階部分）＞

4. 図書館学生ボランティアによる学生読書室ツアー

本学には数多くの図書館／室があるが、各学部設置されている「学生読書室」をより活用してほしいと考え生まれた企画。運営は今年度より発足した学生による図書館ボランティア「LIVS」が実施した。「本キャン『学読（がくどく）』ツアー」と名付け、学生という身近な存在が案内する親しみやすさから、参加者（新入生）が質問しやすい雰囲気ができ好評であった。

5. 学生ボランティアによる学習相談会「先輩直伝！大学フル活用勉強法」



＜学習相談会の様子＞

大学公式プロジェクト「こうはいナビ」の学生ボランティアが行なった企画。前半は高校と大学における「学び」の違いや勉強法についての話と、後半は新入生の抱える学業面の不安に先輩が相談にのるという座談会の2部構成。学生読書室ツアーと同じく、学生同士で気軽に相談ができる点が学生にとって魅力的に映ったのか、早々に募集定員（15名）に達した。当日も、学生同士で活発な意見交換が行われ、先輩から真剣に学び取ろうとする後輩の姿が見てとれた。今後も学生との協働企画は欠かせないだろう。

6. 姜尚中氏講演会

当館の飯島昇藏館長の学友でもある政治学者、姜尚中氏（聖学院大学全学教授）をお招きし「大学で学ぶということ～君たちへのメッセージ～」と題した講演会を開催した。著書やテレビ等で著名な姜先生ということで参加希望者が多く、本会場の他に2つの中継会場を用意し、計179名の参加を得た。アンケートからは、「学びを始めるこの時期に貴重な示唆が得られた」といった感想や、大学生活に「戸惑い」や「迷い」を感じている学生らの生の声が寄せられ、図書館としても従来の初年次教育へのリテラシー支援活動とは違った取組みの必要性を強く感じる好機となった。



＜姜尚中氏＞

7. 情報検索講習会「レポート作成に役立つ！図書館資料の探し方」



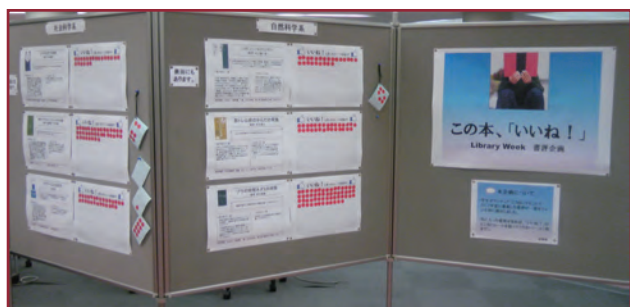
＜講習会の様子＞

これまでも開催してきた講習会（ワークショップ）をこのLWでも実施した。今回は新入生を主な対象とし、扱う内容は今後レポートを書く上で最低限必要となる図書・雑誌記事・新聞記事の探し方に絞った。参加者からの評価は高く、中にはセルフツアーとワークショップの両方に参加したことで、図書館の利用法を体系的に学ぶことができた、といった感想もあった。

8. 映像資料上映会『プロフェッショナル仕事の流儀』上映会」

上映する資料の選定に際して、学生の関心を引く内容でかつ館内上映が可能であるかに留意した。最終的に NHK の「プロフェッショナル仕事の流儀」から、人気漫画家の井上雄彦氏、また社会で活躍する本学の卒業生、佐藤章氏と及川卓也氏が取り上げられた回を上映した。特に就職活動中の学生・院生に好評だった。

9. 書評展示「この本、いいね！」



＜書評展示の様子＞

LW 中の他の企画と違い、「ゆるく」参加できる企画。集めておいた書評のうち、学生の関心を引きそうなものを 12 点選び、掲示した。本の人気を視覚化できるよう、「いいね」と思った本の紹介文の隣にシールを貼れるように工夫した。LW 期間中のみで約 100 枚（6 月 24 日時点で 289 枚）のシールが貼られた。

紹介された資料の一部（シールが多く貼られた順）

「ゾウの時間ネズミの時間：サイズの生物学」 本川達雄 著
「経済ってそういうことだったのか会議」 佐藤雅彦・竹中平蔵 著
「風の谷のナウシカ」 宮崎駿 監督
「イスラームとは何か：その宗教・社会・文化」 小杉泰 著
「筋トレ以前のからだの常識」 平石貴久 著

10. 「ライブラリークイズ」

図書館利用に関するクイズを Web 上で実施した。図書館トリビアを盛り込み、クイズの正答率が高かった参加者にはオリジナル絵葉書をプレゼントするなどして、エンターテインメント性を持たせた。参加者数は多くはなかったが、「学生が何を知っていて、何を知らないか」ということを回答から読み取ることができ、図書館利用に関する理解度を計るツールとして利用できることが分かった。

◆まとめ

当館としてこのような大規模なイベントを行うのは今回が初めてであり、単純に過去との比較はできないが、参加者の反応はアンケート等からは概ね好評だった。全新入生に行き届いたとは言えないが、図書館職員としては一定の成果を得ることができ、学内他部署からも前向きなコメントが寄せられた。また、イベントを通じて新たに気付かされたことも多かった。主だったものを挙げておく。

1. 勇気をもって新しいことに挑戦することの意義
2. 多様性への配慮（多様な学生のニーズやバックグラウンドの理解）
3. 人と人とがつながる機会の提供（旧来の図書館サービスには薄かった視点）

今後も、全新入生に行き届くよう、継続してイベントを開催していく予定である。早稲田大学図書館の取り組みに引き続きご注目頂きたい。